

《担当者名》橋本竜作

【概要】

認知心理学は人が世界をどのように認識し、行動するのかについて、情報処理モデルをもとに実験を行い、そのモデルの検証を通じて、人の心理過程に接近しようとする学問である。本講義は言語聴覚療法学科の学生が、はじめて受講する心理学分野の講義であることを考慮し、心理機能を測るといった体験を織り込みながら認知心理学について学んでいく。

【学修目標】

リハビリテーションの対象となるひとの障害によって生じる心理および行動障害を理解するために、その基礎となる健常の知覚/感覚・記憶・注意・問題解決などの認知過程について知る。

1. 感覚、知覚、特に視覚認知の特性について説明できる。
2. 記憶の分類とモデル、その測定法について説明できる。
3. 注意の分類とモデル、その測定法について説明できる。
4. 問題解決と推論、言語、対人認知について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	心理学の歴史	講義ガイダンス、心理学の歴史を概観する。	橋本竜作
2	感覚	感覚の種類と、その特性について学ぶ。	橋本竜作
3	知覚・認知	色彩、奥行き、運動の知覚について学ぶ。	橋本竜作
4	知覚・認知	形態認知について学ぶ。	橋本竜作
5	記憶	記憶の分類、その測定法を学ぶ。	橋本竜作
6	記憶	系列位置曲線を描き、記憶モデルについて学ぶ。	橋本竜作
7	記憶	情報処理と忘却について学ぶ。	橋本竜作
8	注意	注意の分類を知り、その測定法を学ぶ。	橋本竜作
9	思考・知識	問題解決と推論、概念（知識）の理論を学ぶ。	橋本竜作
10	言語	コミュニケーション、象徴機能について学ぶ。	橋本竜作
11	対人認知	自己呈示、対人魅力、認知的不協和理論を学ぶ。	橋本竜作
12	まとめ	小テストと、その解説を通じて内容の定着を図る。	橋本竜作

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト・レポート課題30%、定期試験70%

小テスト・レポートで多かった誤りについては講義内で解説する。

試験実施後、問い合わせがあった際には、解答の要点を掲示する。

【教科書】

山田弘幸 編著 「言語聴覚士のための 心理学 第2版」 医歯薬出版株式会社 2020年

【参考書】

箱田裕司 他 著 「認知心理学」 有斐閣 2010年

鹿取廣人 他 編 「心理学」第5版補訂版 東京大学出版会 2020年

【備考】

「まとめ」の開講日が変則となります。

日割り日程を確認してください。

【学修の準備】

予習は教科書の関連する章を読んでおくこと（80分）。

復習は講義終了後に資料を精読し、専門用語の意味を中心に理解すること（20分）。

専門用語や理論に関して、自身のことばで説明できるように教科書・参考書を参照してまとめておくこと（60分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。